



No.33

2013 April

[MISA会報 第33号]

- 賀詞交歓会・新春講演会 講演
- グッドカンパニー大賞受賞 報告
- みやぎ産業振興機構&MISA連携業務 報告
- MISA会員企業合同就職説明会 報告
- B to Bソリューションフェア東北2012 報告

■発行/一般社団法人 宮城県情報サービス産業協会 仙台市青葉区上杉1-6-10仙台北辰ビル5F 【TEL】022 (217) 3023 【FAX】022 (217) 3055 【E-mail】misa@misa.or.jp  
■URL/http://misa.or.jp ■企画・編集/企画・広報委員会 ■印刷/ハリウ コミュニケーションズ株式会社



## 賀詞交歓会開催

新春恒例の賀詞交歓会が平成25年1月10日（木）パレスへいあんにおいて東北経済産業局、宮城県、仙台市、関係団体からのご来賓を含め、会員皆様200名を超える出席のもと開催されました。

はじめに、協会を代表し石塚卓美会長より、新年の挨拶があり、JISA会長、(株)NTTデータ相談役の浜口氏に「日本のIT～現状と課題～」と題して、日本の情報サービス産業の状況と欧米との比較、新たな市場創造等について講演を頂きました。引続き交流会に入り、ご来賓の皆様よりご祝詞をいただいた後、秋山理事の乾杯の音頭により懇談となりました。

震災の復旧・復興に向けた大変厳しい中ではあ

りますが、新春独特の華やかさも加わり、これまでになく多くの参加をいただき終始和やかな雰囲気の中、会員相互の情報交換や親睦を深める場となりました。中締めは当協会副会長の荒井氏に三本締めの音頭をとっていただき盛況裏に終了することが出来ました。ご来賓、そして会員の皆様の多数ご出席いただきましたこと、心より御礼申し上げます。



## 新春講演会・賀詞交歓会 会長挨拶

一般社団法人 宮城県情報サービス産業協会 会長 石塚 卓美



皆さん、新年明けましておめでとうございます。

皆様と一緒にこのように新春を迎えられますことを、まずもってお慶び申し上げます。

また、本日は、当協会の新春講演会・賀詞交歓会に、ご来賓の皆様を始め多数の会員の皆様にご参加いただきまして、誠に有り難うございます。

さて、早いもので東日本大震災からまもなく丸2年目を迎えようとしております。

多くの尊い命が失われると共に、相当数の家屋が損壊・喪失しまして、これまで経験したことのない、未曾有の被害は忘れることはできません。

震災直後から国を挙げての、復旧・復興に向けての懸命な取り組みがなされておりますが、復旧のための要員

や資材等の迅速な調達問題等も影響し、本格復旧・復興に向けての着実な歩みとなるにはもう少し時間がかかる気がいたします。

そういう中で東北の経済そのものは、壊滅的な被害を受けた水産加工業や、工場や設備の浸水や損壊を受けた製造業などの回復基調や復興需要の増加で、建設・不動産などを中心に景況感改善の動きが見られるものの、円高等の影響を受け現在も震災前の水準にはほど遠い状況が続いておりまして、全体的に大変厳しい状況にあります。

このような状況の中、我々地域IT業界におけるビジネス環境は、大震災の影響による地域経済の停滞に加えて、IT投資やIT開発の首都圏一極集中化、さらにはクラウドコンピューティングシステムの普及等により、厳し



い市場環境の中に在ることはご承知の通りであります。

しかし、ITが社会経済発展のインフラとして、重要な役割を担っていることには変わりがありません。

我々地域IT業界としては、地域におけるIT化を促進し、地域全体のITの有効活用を図りながら、地域社会経済ならびに地域ビジネスの発展に大きく貢献していかねばなりません。

宮城県では～宮城・東北・日本の絆 再生からさらなる発展へ～をスローガンに「震災復興再生計画」を策定し、10年計画で、ふるさと宮城の復興と発展の実現に向けて取り組んでいるところでございます。

この実現のためには、県民一人一人がその担い手となるのはもちろんですが、行政機関、企業、団体、NPOなどの総力が結集されなければ、その実現は難しく、私共IT業界が担う役割も大変大きなものと認識しております。昨年10月末には当協会として初めて「グループアライアンス事業の推進について」宮城県に政策提言を行っております。また、みやぎ産業振興機構様とタイアップし、地域の中小企業のIT化促進にも取り組んでおりまして、成功事例を発掘すべくこれからも積極的な関わりを持ってまいりたいと思っております。

さて、平成25年の干支は、ご存じのように巳年でございます。

巳という字は胎児の形を表した象形文字で蛇が冬眠から覚めて地上に這い出す姿を表しており、「起こる、始まる、定まる」の意と言われております。また、蛇は脱皮することから「復活と再生」を表すとされております。

す。まさに宮城県の「復興・再生」にふさわしい年であり、我々地域IT業界としても、会員の一層の連携により、産業構造変革に向けた、前進ある年としたいと願っている次第でございます。

また、今年是一般社団法人としてスタートして3年目を迎える年でもあります。中期事業計画の最終年度として、重点課題を着実に実践していくと共に、魅力ある地域IT業界としての「新たな体制づくり」にも積極的に取り組んでまいり所存であります。

今年も旧年にも増して、皆様方のご理解、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本日の新春講演会は、元NTTデータ代表取締役社長で現在、一般社団法人情報サービス産業協会（JISA）の会長をしておられます浜口友一様に、『日本のIT～現状と課題～』をテーマに、お話を伺うこととしております。

浜口会長は、JISAの会長としてITに関しては幅広い見識をお持ちでありまして、これまでの豊富なご実績・ご経験を基に、大変貴重なお話をいただけるものと思っておりますので、ご清聴の程よろしくお願いいたします。

昨年暮れに政権が変わり、安倍新政権への期待感から新年早々、株も高くなって来ており円安傾向も進みつつあり、久しぶりに今年は明るい年になるのではと思っておりますし、ぜひそうなるよう願うところでございます。

それでは、今年が皆様にとって良き年になりますよう祈念いたしまして、年頭の挨拶といたします。有難うございました。

## 新春講演会・賀詞交歓会 来賓挨拶

東北経済産業局 地域経済部長 **滝本 浩司 様**



宮城県は、東日本大震災から1年10ヶ月経ち、県全体としては経済的、活動的にも戻ってきている中にありますが、依然として津波被災地の沿岸部それから東北全体で見れば福島原発の事故に伴う被害地域等、経済産業

局としてはいろいろな復興事業を推進していかなければならない状況下にあります。それから、県全体としては戻ってきていると申しましたが、前の状態にやっと戻ってきたという状態の中で、今後少子高齢化が進む現状を



踏まえ発展基盤をどう整えていくかが一つの課題とっております。

そんな中で、電子情報関係におきましては、昨年は三つほど明るい動きが出てきております。一つは、昨年7月に発足しましたトヨタ自動車東日本の設立でございます。自動車の電子化、情報化がどんどん進んでいく中で、宮城県情報サービス産業協会会員企業の皆様にもいろいろなご活躍の場が出てくるものと信じております。

二つ目は、震災復興事業の一環として今、多賀城に建設を進めておりますサイバーセキュリティに対応するためのテストベッドというものがございます。これは世界ではアメリカに続いて2番目のセキュリティベッドでございます。ここでいろいろな実験、実証、標準化が進められる予定になっております。当然そういう拠点が出来るとなるとこの仙台を含む近隣にいろいろな産業集積ができることが期待されます。

三つ目は、まだ小さい取り組みでございますが、私共

政府行政機関の公共データを開放し利用促進することであるいろいろな新しいビジネス創出をはかっていく取り組みでございます。

こちらはまだ端緒についたばかりであります。できるだけ情報産業分野の企業の皆様にご活用いただけるよう少しずつ進めているところであります。この三つの明るい兆しを糧にしながら、宮城県を含む東北地域での発展基盤形成に繋がればと念願しているところでございます。それから個人的な話ですが、毎年、仙台国際ハーフマラソンが5月に開催されておりますが、これまで走った経験がない私が無謀とは思いつつエントリーいたしました。個人、公私ともどもいろいろなチャレンジができたらと思っております。

どうぞ本日ご出席の宮城県情報サービス産業協会の皆様をはじめ、関係各位の皆様、今年一年明るい実り多い年となりますことを祈念いたしましてご挨拶いたします。



宮城県震災復興・企画部次長 猪野 信 様

## 新春講演会・賀詞交歓会 来賓挨拶

貴協会の皆様には日頃より本県の情報サービス産業の振興と地域のIT化推進に多大なるご尽力、ご貢献をいただき感謝申し上げます。

先ほど滝本部長からもお話がございましたが、震災から1年10ヶ月が経ちました。本県では平成23年度から25年度までを復旧期と位置づけ、真摯に取り組んでいるところですが、本年度はまさしくその最終年度であり、その後の4年間である再生期の正念場の年になるであろうと考えております。

本県の経済は厳しい局面から復興需要にも支えられ緩やかな回復基調にあります。情報産業分野におい

てはまだまだ厳しいものと認識しております。政権がかわりまして被災地に向けた迅速な政策実行や経済振興策に期待が寄せられておりますけれども、IT分野におきましてもマイナンバー制度化の加速化によるIT投資も期待されるところであります。

本県におきましても、引き続き情報サービス産業業界への技術力向上、あるいは販売力強化、人材育成に取り組んでまいり所存でございます。

このような中、貴協会の会員でもございます株式会社コンピュータシステム研究所様が昨年11月、第46回グッドカンパニー大賞 優秀企業賞を受賞されまし



た。IT業界では第1号というふうに聞いております。本県では平成2年以来、実に22年ぶりの受賞でございます。久々に明るいニュースと考えております。引き続き宮城県としてもいろいろな施策を展開して参りたいと思います。

情報サービス産業は、経済発展のエンジンでございますし、今後ますます貴協会の果たす役割が大きな、かつ重要になってくるものと考えております。貴協会のさらなる発展と本日ご出席の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして挨拶いたします。

## 新春講演会・賀詞交歓会 来賓挨拶

仙台市経済局 産業政策部長 **根岸 浩友 様**



震災から1年10ヶ月が経ちました。被災地を回ってみますと、「うちは家が流されただけでたいしたことないんだよ」、「うちは家族が助かったから」というような、ひどい状況にもかかわらず自分よりもっと大変な人がいるという人たちの意見をよく耳にしました。

仙台の方もそうですけど東北の方々は非常に我慢強いというふうに感じております。

仙台市としても、復興の道のりはまだまだ続きますけど国や県の力を借りながら現在最善の努力をしているところでございます。ただ、行政の力だけでは不十分でございますので皆様方のお力も大変重要とつくづく感じているところでございます。

そう言う意味で、東北大のIISセンターとの連携によるITペアリング事業などは、まさしく地元IT企業さんと連携して被災地を支援するという、将来を見据えた非常に良い試みではないかと思っております。仙台市といたしましても復興に向けた「仙台経済ステップアッププラン2012」を今年から新たに始めたところでございます。このプランは約100億円規模の非常に大きな事業で118の事業がございます。例えば企業誘致、緊急雇用による人材育成、商店街のハード・ソフトの

整備、また4月からのディスティネーションキャンペーンの交流人口の拡大、そして仙台市が特に力を入れているコンベンションの誘致による交流人口の拡大策としてスポーツセンターの跡地に新しい施設建設の取り組み等がございます。仙台の街中を活性化することによって、少しでもお金が落ち、人的交流が増え、最終的に情報産業のビジネスにつながればと願っているところです。

仙台市が取り組んでいる事業の概要をここですべてご説明するのは難しいですが少しずつ進めているところですのでご理解いただければと思います。

いずれにしても、情報サービス産業というものは先ほどITペアリングの話をしましたけど復興を支えていく大きな力でございます。IT化というのはなかなか難しい面があるかと思いますが、農業や復興住宅、新しいまちづくり等様々な部分で必ずつながっていく産業でありますので、復興を支えるベースとして改めて皆様方のお力添えをいただければと考えております。

最後になりましたが貴協会のますますの発展と本日ご出席の皆様のご健勝を祈念いたしまして挨拶いたします。



## 平成25年賀詞交歓会記念講演

# 「ニッポンのIT～現状と課題～」

一般社団法人 情報サービス産業協会 会長  
株式会社 NTT データ 相談役

浜口 友一 氏



### 1. 情報サービス産業の状況

最初に私共の情報サービス産業業界の状況ですが、従業員の数と業界全体の売上は右肩上がりで一応伸びてきております。ほかの業界と比較してみますと売上は多重下請けということで若干多めに出ていると思われませんが、19.8兆円。実際は12、13兆円とも言われ、鉄鋼とか情報通信機器製造とか比べましても見劣りしません。自動車は大変売上が多く従業員の数も実際は96万人になっていますが、関連企業を入れますと500万人とも言われています。それにしても情報サービス産業もほぼ100万人に近い従業員がいるということで、日本の一つの基幹産業になっているというふうに思います。

ただ、ほかの産業に比べますと歴史が浅いということの一つの業界としてまとまりにくい面があり政治家の方々にはわかっていただけないというところが非常にもどかしく思っております。ITを利活用して景気の立て直しや産業の振興に力を入れている国はたくさんありまして、アメリカは国策としてやられています。そして東南アジアでもマレーシアもそうですし、中国は今、非常に力を入れています。こういう国を見てみますと、政治の世界でITの重要性が日本よりはるかに分かっているような気がして、なんとか日本もIT、ICT立国というふうな方向に行って欲しいと思っており、ぜひ地方の方でも政治家の方にITの重要性というものをご説明いただくとありがたいです。

情報サービス産業の売上を世界で見えますと日本は8%程度、圧倒的に多いのはアメリカで42.5%、ヨーロッパが23.9%で日本は3位ですが、中国もどんどん伸びてきていると思います。日本のIT売上がどういう分野かと申しますと、製造業と金融・保険業で約5割、公務が11%、情報通信業が10.5%、卸・小売業が10%弱となっています。これを世界的に見てみますと、製造業、金融業両方足しても25%、他は輸送、ヘルスケア、病院関係、小売、サービス業等に分布しており、日本のIT化が見劣りしていることが伺われます。それから非常に大きな問題ですが、IT投資比率は米国はGDPに対して0.7%、日本は0.4%ということで半分位にとどまっている。民間のIT投資比率は北米が4.3%、ヨーロッパが3%、アジア・太平洋でも2.9%、日本は1%です。ITを使ってビジネスを発展させていく、売上や利益を増やすという考え方は、日本の場合は省力化の方にウェイトがあり、攻めの投資になかなか向いていない。ITをよく理解している経営者が非常に少ない気がします。

それから、日本の情報サービス企業には大変影響がありますが、オフショア開発がどんどん進んでおり、特に中国が85%と非常に多くなっています。グローバル化も進んでいまして、中国、アメリカについてヨーロッパ、シンガポールも

進出国として意外と多くなっていますし、これからは東南アジアが注目されています。

### 2. ソフトウェアの特徴

次に日本のソフトウェア開発ですが、開発というよりむしろソフトウェア製造という考え方で行われてきた部分が多いのではと思っています。日本というのは、ご承知のように製造業が大変強い。製造業というのは、マスマプロダクション、大量生産が非常に強いわけで、あるところまで行けば製造のラインに移し、どんどん大量生産する。作ればつくるほど品質は向上し改善効果も上がり、コストも下がっていくことになります。しかし、ソフトウェアは一品生産で、作ってしまえばあとはコピーするだけで膨大なソフトが利用可能となるわけです。だから工場のラインなんかいらなくて、そういう違いがあるものを工場と同じ考えで作ろうとしたことに間違いがあったのではと反省しているところです。上流工程の設計とか知的作業が必要なところは専門集団にやらせ、プログラミング、メイキングに入った後は工場的な手法でやるような、開発手法にしていけないと世界の開発方法と違ってくるのではと思っています。もう一つ、ソフトウェアの特徴ですが、作ればコストがかかり、作らないですでに出来上がっているものを使うことが一番安くすみます。しかし、日本はでき合いのソフトはなかなか使いません。アメリカはパッケージの利用率が6割を超えています。日本はようやく2割弱程度で、まだ個別個別のものを作りたがる傾向にあります。やはりインフラコストを下げていくにはパッケージソフトをうまく活用することが必要ではないかと思えます。競争領域と非競争領域というものきちんと分けて非競争領域では出来上がっているもの、自分たちにあったものが沢山あるわけですから、それらを使って行くことがいいのではと思います。なにしろ出来るだけ作らないようにし、コンピュータ化する前にBPRをやらなければいけないということです。ところが政府のシステムはBPRができませんね。うまくBPRしてコンピュータに載せると絶対に人が減るんですが減ってない。この辺が問題だと思えます。

それから日本のシステムは非常に信頼性が高いです。マスコミも騒ぎすぎですが証券取引所が1時間止まったら大変です。ニューヨークの証券取引所は年に何回止まっているかと聞いても何も知らない。結構4、5回は止まっているのではと思います。問題なのは1時間止まったとして何か被害が出たのだろうか、決定的な大変なことが起きたのだろうかということです。

情報システムの稼働率、要するにシステムダウンは、アメリカの1/10くらいです。この稼働率信頼性と品質とは

ちょっと違います。そこで経済産業省とIPAにやっていたのですが、この信頼性を4タイプに分けてやったらどうかということで、一番上がタイプ4で、これは人命に影響があるとか、社会的に甚大な被害が想定されるものです。甚大な被害とはいわないけれど社会的影響は極めて大きいものはタイプ3に分類しある程度品質、稼働率を確保する必要があるとしています。その下にタイプ2、タイプ1とあって例えばタイプ1は財務システムなんかで、別に半日程度止まっても影響ない物に分類されます。BCPとってまですけど、ビジネスとか事業継続がきちんとできるような対応にお金をかけていく考え方にした方がいいんじゃないかと思えます。

### 3. 欧米のシステム開発方法との比較

先ほどソフトウェア開発方法について述べましたが、欧米とは典型的な違いがあります。

欧米の場合は、システム構築は発注元が完成責任を負うのが一般的です。だから例えば政府が発注すると、政府が完成責任を負うということです。ベンダーは一種のサポートという形で入る。これに対し日本は、ベンダーが完成責任を負う形が非常に多いです。もちろんユーザーが完成責任を負っている企業もありますが、これはかなり日本では先進企業です。それから欧米は仕様を決めるのはユーザーになっています。日本もユーザーになっていますが非常に役割分担が曖昧です。そして欧米は他社のベストプラクティス、あるいはパッケージを調べて使えるかどうか考えます。日本の場合は、スクラッチ開発と呼んでいます。最初からその会社に適用するものを全部オーダーメイドで開発することが非常に多い。そして開発は、ウォーターフォール中心です。上からやっていくということで時間がかかる、ドキュメントが増える、限界があるんじゃないかと思えます。欧米の場合は、一応ウォーターフォール型で行くんですけどもアジャイル型等の併用で、とりあえず画面を作ってみるとか、枝葉のところはスモールチームで対応していくようなやり方になっています。

それから一番大きな違いは日本はドキュメントが非常に多い。欧米は、ドキュメントがソースコードだと言っています。日本は、日本語で要求定義、条件定義を書きますから大きいシステムですとキングファイル何十冊にもなる。ユーザーが完成責任を負うところと、ソースコード中心だということが一番の違いでないでしょうか。

今みたいな違いがありますから、クライアントとベンダーの契約も違ってきます。欧米はT&Mと言われている契約で、日本で言えば派遣みたいなものです。例えば100人の開発部隊がいるとすれば、3分の2がユーザー側の部隊です。ですから60から70人がユーザー側の人数で、残り30から40人がベンダー側がT&M契約で入っています。そしてクライアント側が1ヶ月くらい見て、使えない人は返すから代わりの人をよこしてくれとやります。1ヶ月位経つときちんとした100人部隊が出来上がりますが日本では派遣法に触れるようなやり方が行われています。日本の場合は請負契約です。まず基本契約を結び個別契約でこれは幾らですとやっていくのが建前ですけど、仕様が確定していない最初に出した金額が独り歩きしユーザーとの問題に発展する場合があります。

これは絶対に請負契約の悪いところとして、この辺の考え方を直していかなければと思っています。

開発方法に戻りますが、欧米はウォーターフォール型が半分、残りがアジャイルとかが半分です。私はこういう形が良いのではと思っていますが、アジャイル型とは、まず作ってみようというやり方で画面なんか作るときに非常に有効です。とりあえず画面を作ってお客さんに見てもらって、直していくやり方です。だから要件定義ということはやりません。

ドキュメントが完璧に省けるといって、非常にスピーディーだし、コストも安くなります。ただ、これをやるうとするとお客さん側に体制を作ってもらする必要があります。

だからこれからの開発は、ソースコードがドキュメントなんです。ソースコードを自由に使いこなせる能力を日本ももっと磨いていく必要があると思っています。

### 4. これからのシステム開発と新たな市場創造

我々ITベンダーは、どちらかということこれまで受注型で仕事をやってきたわけですけども、夢と希望あるものを作っていくためには、ある程度リスクも負って携わっていくことがIT産業を将来の魅力ある産業にしていく一つの道ではないかと思っています。

従って、受注だけではなく自分自身のリスクマネーも使って新しいR&Dとかイノベーションというものをやっていく必要がある。そのためには一社だけでは非常に難しいのでコンソーシアムを組むか、ほかの産業、商社などと一緒になって新しい製品とかサービスを作っていけたらいいのではと考えています。

JISAでもこれらにトライしていくために市場創造チャレンジ委員会というものを作っていくことを今議論しています。

そういうことで、東北でもこれからのいいシステムをぜひ開発してもらいたいと思いますしこれは東北のベンダーの方々に相当力を入れてやってもらうのがいいんじゃないかと思っています。ぜひ特区を有効に活用するとか、あるいは政治家の方にきちんと説明して予算をとってもらってやっていく。そういうモデルを作って、ほかの地域とか海外に展開していくというふうなことがいいのではと思っています。特に東北地方は災害に強い産業や地域・社会づくりにIT利活用によるスマートコミュニティ構想等、復興に向けた新しい取り組みが進んでおり、大いに期待しているところでございます。



# 当協会会員企業がグッドカンパニー大賞(優秀企業賞)受賞

このたび、標記について宮城県から候補企業として推薦された当協会会員「株式会社コンピュータシステム研究所」が「第46回グッドカンパニー大賞(優秀企業賞)」を受賞しました。

「グッドカンパニー大賞」は、全国の中小企業の中から経済的・社会的に優れた成果を挙げている企業に贈られる、我が国で最も歴史と実績のある、中小企業のための賞です。

本賞は全国7ブロックからそれぞれ1社選ばれるものであり、北海道・東北地区を代表し県内企業の受賞は平成2年以來22年ぶり、情報サービス産業としては東北初となります。

## 1. 受賞企業(株)コンピュータシステム研究所の概要

- (1) 本社：仙台市青葉区北根黒松 14 - 15
- (2) 設立：昭和61年6月(資本金：2億2,625万円)
- (3) 代表者：長尾 良幸(社員数：316名)
- (4) 業務内容：土木・建築・福祉・運輸事業関連のコンピュータシステム開発・販売・保守、各種コンサル事業等

## 2. 受賞理由

土木建築分野を中心にトータルソリューションシステムを開発し、国内20箇所の営業所と中国にも進出し、自社コールセンターのフォローにより、ユーザー数でトップシェアを確立。IT商品ブランド化を牽引する高度な技術を有し、今後の成長が期待できる。

## 3. 「グッドカンパニー大賞」の概要

- (1) 趣旨：全国の中小企業の中から経済的・社会的に優れた成果を挙げている企業を選んで顕彰し、中小企業の発展に資する。表彰対象は、資本金又は出資総額3億円以下の法人企業など。

## (2) 表彰の種類

- 「グランプリ」：全国水準において優れた企業
- 「優秀企業賞」：全国を7地区に分け、その地区においてグランプリに準ずる企業
- 「特別賞」：社会貢献度が高く、将来性があると認められる企業
- 「新技術事業化推進賞」：技術、ソフト、システム等の開発・考案に独創性を有し成果を挙げており、将来性が認められる企業

## (3) 県内の受賞歴

- (株) 本山製作所(S43)、(協組) 仙台卸商センター(S55)、東北電子産業(株)(S60)、大山ブロー工業(株)(H2)
- ※グランプリ受賞歴はなし

○本賞の概要は以下を参照ください。

社団法人中小企業研究センター  
<http://www.chukiken.or.jp/>



Natural Food Cafe

Green Heart

ナチュラルフードカフェ・グリーンハート 〒989-3201 仙台市青葉区国見ケ丘5丁目31-21  
 TEL & FAX 022-342-4665

<http://greenheart-cafe.jp/>

●情報システム化提案  
●経営/業務/BCP  
●コンサルティンク

ソフトウェア  
開発

●基幹業務システム  
●ホームページ

http://itkoko.com/

ソフトウェア/  
ハードウェア  
販売

●IT関連機器販売  
●各種パッケージソフト販売

創造を未来に向けて

NCS 株式会社エヌ・シーエス  
 Network Communication Systems



平成25年度事業計画が第5回理事会において承認さる。

第5回理事会は去る3月26日、パレスへいあんにおいて11名の理事出席のもと開催され、25年度事業計画について審議・承認されました。

主な事業内容は以下の通りですが、詳細は6月の総会において会員の皆様に報告される予定です。

## 平成25年度MISAの主な事業計画

### 【企画・広報委員会】

- ・第二回通常総会・講演会 6月
- ・情報誌発行（第33号、第34号） 4月、10月
- ・東北ITソリューションEXPO2013開催 10月29～30日
- ・賀詞交歓会・講演会 1月
- ・事業運営会議 5月、8月、11月、2月

### 【経営委員会】

- ・経営者層研修会 9月
- ・社労士セミナー 1月、2月
- ・経営者層情報交換会（MISA交流サロン） 5月、7月、9月、11月、3月
- ・ミサリー（女性対象情報交換会） 6月、11月
- ・親睦ゴルフ大会 4月、10月

### 【人財確保推進委員会】

- ・IT企業就職共同ガイダンス 12月
- ・産学共同実践的IT教育（大学・高専） 8月～11月
- ・産学共同実践的IT教育（中学・高校） 5月～2月
- ・長期インターシップ事業 随時

### 【人財育成委員会】

- ・新入社員研修会 4月～5月
- ・中堅社員研修会 7月、8月、10月
- ・技術向上セミナー 11月
- ・次世代交流会 6月、9月、12月
- ・グローバル人材育成検討 4月～2月

### 【福利厚生委員会】

- ・会長杯フットサル大会 7月、10月
- ・同好会 2月
- ・ヘルスケアセミナー 11月
- ・広報及び新規事業の企画検討 随時

### 【事業共創委員会】

- ・保有技術の調査・情報発信 随時
- ・異業種交流会への参画（フロネシス21） 随時
- ・富県宮城推進会議幹事会 5月、9月、2月
- ・農商工ビジネス研究他 随時

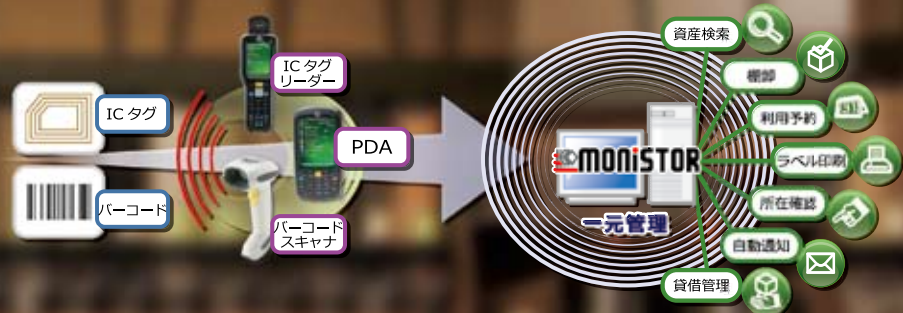
【共通】 ・震災復興支援 随時 ・組織基盤強化 随時 ・行政機関等との情報交換 随時 ・IT業界次世代人材育成事業 4月～3月

## 資産・物品管理システム

<http://www.tss21.co.jp/monistor/>

**MONISTOR**  
モニスター

棚卸・資産管理をRFID（無線ICタグ）・バーコードで実現するソフトウェアです。  
棚卸や持出・返却管理、利用スケジュールを管理し、企業資産の効率的な循環と有効活用へ導きます。



私たちが提案するトータルソリューションを通じて  
お客様の未来を創造するお手伝いをいたします



ONE STOP SOLUTION

株式会社 東北システムズ・サポート



<http://www.tss21.co.jp/>

〒983-0021 仙台市宮城野区田子1丁目3-14 TSSビル  
TEL. 022-259-9804 (代) FAX. 022-259-8222

# 公益財団法人 みやぎ産業振興機構との連携について

企画・広報委員会

宮城県内中小企業のIT活用状況は、企業によって相違はあるものの、総じて十分とは言えない状況です。IT技術活用によるコスト削減や生産性向上、営業力強化等の可能性を持ちながらも、「IT化検討体制ができておらず、相談できるIT企業も判らない。ITをどう活用すればよいのか、検討はどうか行えばよいのか不明」という状況にある企業も見受けられます。

我々地域のIT企業がIT化を支援することにより、これらの企業の企業力向上に貢献することが望ましいと思います。

しかし、中小企業は、どれだけ効果があるかわからないIT化検討に、限られた資源を投下すること自体がためらわれるという状況にあり、また、IT企業のサイドから見ると、受注の可能性が不透明であり、案件規模も小さいことから、リスクを考えると積極的提案活動は難しいというのが現状です。

こうした中において、県内中小企業のIT化を推進するとともに、ITビジネスの裾野を広げるために、各種の助成措置等を活用し、中小企業のIT化検討コストを低減するとともに、IT企業のリスクを軽減することが望まれます。

以上の観点から、総合的産業支援機関である「公益財団法人みやぎ産業振興機構」とMISAは、同機構が推進する専門家派遣事業等を活用した中小企業のIT化初期検討支援について検討を進めてきました。目的と具体的活動内容は、次の通りです。

## <目的>

1. 経営の向上を図る中小企業者等のIT活用の課題解決を支援することにより、中小企業の順調な発展および成長に資する
2. 上記ニーズを持つ中小企業者とIT企業との取引あっせんにより県内IT産業の活性化を図る

## <具体的活動>

1. 中小企業経営者へのヒアリングの場等において、IT化推進が企業力強化につながる企業に対して、みやぎ産業支援機構の相談員が、専門家派遣制度等活用によるIT化初期検討を提案、打診を行います。
2. 希望する企業には、MISA会員企業が中小企業のIT化初期検討を支援します。専門家派遣事業、復興企業相談助言事業等の活用により、MISA会員企業に専門家派遣費用を担保するとともに、中小企業の検討コストの軽減を図ります。
3. 初期検討の結果、実施されるIT案件については、情報をMISA会員企業各社に提供することにより、地域IT企業のビジネス拡大に繋がります。

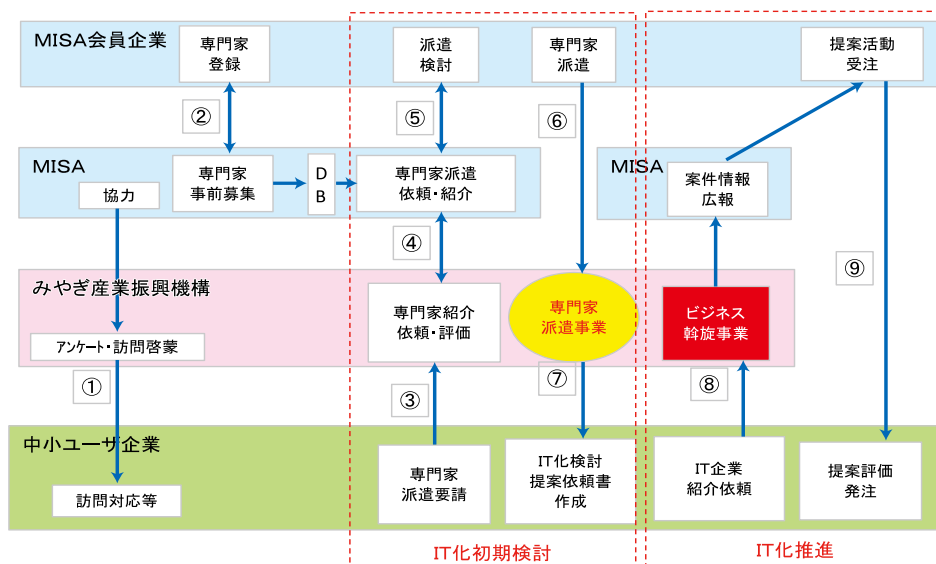
現在、みやぎ産業振興機構と共に、県内2千社に上る中小企業へアンケート調査を実施し、IT化ニーズが高いと思われる企業に対して、同機構の相談員が訪問し、専門家派遣事業の活用によるIT化検討等について紹介活動を行っており、並行して、既に一部の企業に対し、MISA会員企業から専門家を派遣し、初期検討支援を開始しております。

現在は試行段階であり、実際の支援活動を通して、みやぎ産業振興機構との協力の在り方やMISAの体制上の課題等を洗い出し、実効性ある仕組みにブラッシュアップさせたいと考えております。

また、今年度の支援案件の中からモデルを選定し、IT化の成果を広報し、専門家派遣事業等を活用したIT化推進について中小企業各社に浸透させたいと考えております。

「公益財団法人みやぎ産業振興機構」との連携により、MISA会員企業のビジネスの裾野が広がると共に、地域中小企業の企業力強化に貢献できればと考えています。

## <支援の流れ>



# IT業界体験インターンシップの取組み

## 人財確保推進委員会

IT業界体験インターンシップは、IT企業への就職を希望あるいは検討している大学生・高専生・専門学校生を対象にプロジェクトマネジメント手法を用いたシステム開発プロジェクトの模擬体験を通じ、システムエンジニア（SE）実務への理解を深めてもらう目的で、人財確保推進委員会が実施しています。従来の企業単位で個別に受け入れるインターンシップでは、セキュリティの制約やプロジェクト特有の事情があり、実際のSE業務の全体プロセスを実体験できる場を確保するのは難しいという課題がありました。こうした課題を克服し、受講する学生が開発プロジェクトを通じてSE実務体験することでIT人材としてのキャリア形成（興味）やさらなる技術（知識）の修得のきっかけとなり、IT業界の将来を担う人材の確保へとつなげていく取組みです。

今年度は、宮城県下25名の学生から受講応募があり、「社内グループウェアの改修要件」を題材にしたカリキュラムと「せつでん情報提供サイトの機能追加」を題材としたカリキュラムによる14名と11名の2クラス構成とし、東北電子専門学校の会場提供の協力を得て講座を実施しました。実施期間は、学生が本業の授業から離れて集中できる夏休みを利用した8日間の講座と間に1日企業見学を挟んだ計9日間です。講座はグループワークを基本とし、前半が要件定義や設計書の作成、後半が開発・テスト、成果物の整理、納品、発表会資料作成と一通りの実務を体験できる内容です。講座の間に実施する企業見学は、クラスごとにMISA企業を2社ずつ

訪問することで、IT企業といってもそれぞれに特徴があることに気づき、自分に合った企業選びを考えて欲しいという狙いがあります。「それぞれの会社で大きく性格が異なるので、企業研究をすべきだと感じた」という企業訪問後の学生の感想にその成果が現れています。



締めくくりは、異なる大学から集まった学生が一緒のチームとなり、コミュニケーションを取りながらITシステム的设计・開発、マネジメントを実践し、その中で得た気づきやプロジェクト成果をチームごとに発表する成果発表会です。11月13日(火)東北電子専門学校視聴覚ホールにてチームごとステージに上がってプレゼンテーションと質疑応答を行いました。その後、受講生一人ずつに修了証書・スキル習得証明書を授与して全日程を終了しました。

最後にインターンシップ受講後アンケートから受講生のメッセージを2つ紹介します。

- ・IT業界の業務の一環を体験する事ができて本当に良かったと心から思います。今回のこのインターンで培った知識や技術を、残りの大学生活及び就職活動に役立てていきたいと思っています。
- ・今回学んだ中で一番大事だと思ったことは、プログラミングの知識ではなく、ITサービスを提供するものとしての心構えや社会人としての仕事への姿勢です。



# 平成24年度MISA会員企業合同就職説明会

就職環境の厳しい中、MISA 会員企業による合同就職説明会が参加企業 20 社により開催され、200 名を超える学生が来場しました。

開催日：平成 25 年 2 月 4 日（月）

会 場：アエル6階セミナーホール

対 象：平成 25 年、26 年 3 月卒業予定 大学、高専、専門学校生及び未就職者

## 参加企業（20 社）

(株) アセンティア	(株) ステップ
(株) アペールジャパン 東北支店	(株) デジタルメディア研究所
(株) イッツ・コーポレーション	東京コンピュータサービス(株) 仙台支店
イトス(株)	東北インフォメーション・システムズ(株)
NTTデータ東北	東北ディーシーエス(株)
(株) コーディアルコンサルティング&ソリューションズ	(株) トレック
(株) サイエンティア	(株) ビーフル
(株) シー・エス・イー 仙台支社	(株) フジビジネスセンター
(株) システムロード	(株) PRP&BSC
システムニ科尔(株) 仙台支所	(株) Sunnyday



東北地域の復興・発展に向けIT面から最大限に貢献し、  
その情報システムをしっかりと支え、キッチリ守ります。  
これまでも、そしてこれからも。

TOINX

東北インフォメーション・システムズ株式会社

〒980-0021

仙台市青葉区中央二丁目9-10 Tel.022-799-5555 Fax.022-799-5561

<http://www.toinx.co.jp>

## 第4回MISA会長杯フットサル大会決勝トーナメント

福利厚生  
委員会

第4回MISA会長杯フットサル大会の決勝トーナメントをスポパーク松森フットサルプラザで平成24年11月17日(土)に開催しました。

既にオープンクラスとビギナークラスのそれぞれの予選の結果から、決勝トーナメントへの出場権を得た各クラス8チーム、合わせて16チームで総勢167名に参加していただきました。

オープンクラスでは、強いチーム同士のテクニックある攻防や、献身的な守備からカウンター攻撃を繰り出すチームなどもあり、見応えのある高いレベルの試合が多く見られました。

ビギナークラスでは実力が拮抗しているチームが多かったため、どの試合でも最小失点差かPK戦までもつれ込む場面が多く、どちらが勝ち残るか最後まで分からない緊迫した試合展開でした。

決勝トーナメントは負ければ終わりの1発勝負と言うこともあり、これまで以上に白熱した接戦の好試合に、応援する方も興奮を抑えきれずシュートの行方に一喜一憂していたようです。

来年度もより充実した第5回目のフットサル大会を企画する予定でおりますので、これまで以上に多くのMISA会員企業のチームに参加していただいて、上級者から試合経験の少ない初心者や女性でも気軽に楽しんでいただけるようなイベントにしていけるよう、皆様のご協力をお願い致します。



### オープンクラス結果

優勝：東北インフォメーション・システムズ(株)  
準優勝：(株)アート・システム  
コンソレーション  
優勝：(株)NTTデータ東北

### ビギナークラス結果

優勝：(株)協和エクシオ東北支店  
準優勝：(株)デジタルメディア研究所  
コンソレーション  
優勝：(株)クロスキャット仙台支店

## 平成24年度 第23回MISA 親睦ゴルフ大会の開催

経営  
委員会

■開催日:平成24年10月13日(土) ■場 所:西仙台カントリークラブ

春と秋の年に2回行われるMISA親睦ゴルフ大会も今回23回を迎え、14組50名が参加し日頃の腕前を競い合い、和気あいあいと会員の親睦を深めるゴルフ大会となりました。



### 【成績】(敬称略)

	グロス	ハンデ	ネット	
優勝：小野寺満明	(84)	(14.4)	(69.6)	(株)システムロード
準優勝：大平 孝良	(82)	(10.8)	(71.2)	インテリジェントサイエンス(株)
第3位：久保田秀一	(80)	(8.4)	(71.6)	(株)テスプロ
第4位：穴沢 芳郎	(88)	(15.6)	(72.4)	(一社)宮城県情報サービス産業協会
第5位：日向 輝雄	(80)	(7.2)	(72.8)	(株)イツツ・コーポレーション

少人数のご宴会から 大規模なパーティ

講演会や展覧会まで ——

あらゆるスタイルにお応えします

Order Bridal  
PALACE HEIAN

<http://www.heian-sendai.co.jp/palace>

仙台市青葉区本町1-2-2 〒980-0014  
TEL.022-265-5111 FAX.022-265-8082



躍動する企業の“今”を知る！



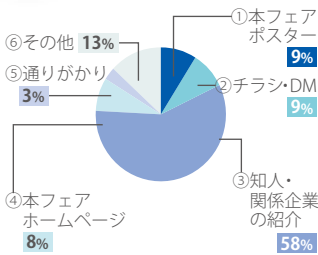
開催報告

# BtoBソリューションフェア 東北 2012

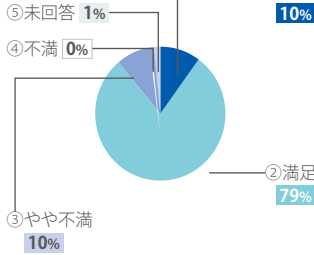
11月8日(木)・9日(金) 時間 AM10:00▶PM5:00 会場 アエル5階 多目的ホール、他

## 来場者アンケート (回答者:826)

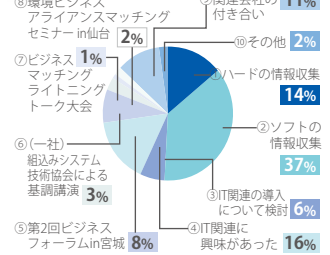
**Q1** 本フェアを何でお知りになりましたか？  
複数回答可



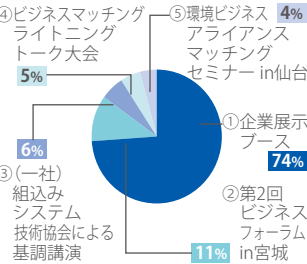
**Q2** 本フェアをご覧になっていかがでしたでしょうか？



**Q3** ご来場の目的は何ですか？  
複数回答可



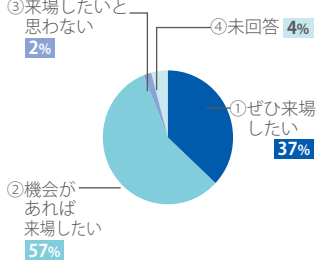
**Q4** どちらをご覧になりましたか？(参加されましたか？)  
複数回答可



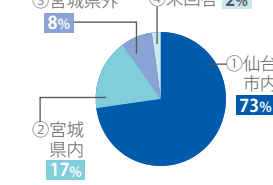
**Q5** 企業展示ブースで興味を持った出展企業名をご回答下さい。  
複数回答可

01. 東北インフォメーション・システムズ(株)
02. イートス(株)
03. ソラン東北(株)
04. サイバーコム(株)
05. (株)サトー
06. (株)シー・エス・イー
07. NECソフトウェア東北(株)
08. (株)東北システムズ・サポート
09. テクノ・マインド(株)
10. (株)信興テクノミスト

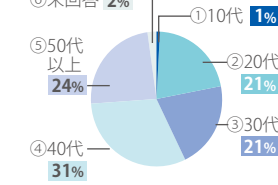
**Q6** 次回も来場したいと思われませんか？



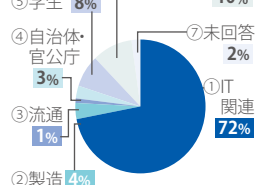
**Q7** お住まい



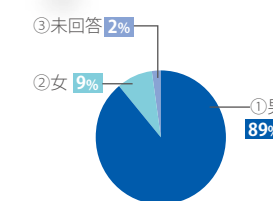
**Q8** 年齢



**Q9** 職業(ジャンル)



**Q10** 性別



本フェアについてのご意見・ご感想・ご要望 (一部抜粋)

- とてもおもしろい内容ばかりでした。
- もっとブースを増やした方が良かったです。
- みなさんとても素晴らしい開発をされており、私も是非参加させていただきたいと思いました。
- 大変盛況で内容も興味深いものが多く、次回も期待しています。
- 初めて寄らせて頂いた。時間をかけて聞いてみたい。
- 金融機関に勤めておりますが、お取引先様の商品や事業内容について、深く理解することができました。
- ソフトウェア開発を行う上で参考になりました。
- 非常に勉強になりました。出会いもあり参加して良かったです。
- とても内容が高度で勉強になりました。
- 楽しく拝見させて頂きました。
- 基調講演を聞いたが、講演者のITに対する目の付け方、考え方が参考になった。業種は異なるが、考え方など非常に勉強になった。
- 次回も大々的に開催できることを期待します。
- 情報収集にはいいイベントでした。
- もう少し積極的な声掛けがあっても良い。
- 多くの出展作品を見せて頂いて大変参考になりました。
- ネットワーク、タブレット、プリンタとジャンル毎に場所がまとまっていると見易いのではないかと感じました。
- 告知の方法が良くないのか、他のフェアと比較して活気がないと感じた。
- 会場の照明が暗い。BGM等があると雰囲気明るくなると思います。イベント等もあると思います。華やかさが足りない。
- もう少し展示企業が多くても良いと感じた。
- 各展示スペースの間隔がせまいため、話を聞きにくい。
- 展示ブースの一覧、出展内容の一覧がぜひ必要であると思います。
- 何かあるか来場するまで分かりません。
- ライトニングトーク大会では別会場の音声が聞き取りにくい。またプレゼンはマイクが必要だと思います。

## ■入場者数 1,959名

- ・企業展示ブース:590名 ・第2回ビジネスフォーラムin宮城:266名
- ・(一社)組込みシステム技術協会による基調講演:115名
- ・環境ビジネス アライアンスマッチングセミナー in仙台:988名

## ■開催趣旨

東北地域のIT産業を中心に企業力・製品力を総合・結集し、広範なソリューションを展示し、プレゼンテーションを行うことにより、ユーザーの皆様の様々なニーズに対し、最適なソリューション・サービスを提供することを目的に開催いたしました。

## 基調講演

11月8日(木) 第2回ビジネスフォーラムin宮城

会場 6階セミナールーム(2)

# 復興∞IT(クラウド)∞地域力

—1歩前に 6次産業の推進の為に更なるITの活用を—

### 基調講演

## 次世代の農業とは!!

～陸前高田に於ける6次産業化の取組み～

株式会社グランパ 代表取締役  
一般社団法人 野菜BANK 理事長

阿部 隆昭

### 企業講演

## 事例紹介:被災地での6次産業の新技术術

株式会社三菱総合研究所  
社会公共マネジメント研究本部  
食農ビジネスグループ主任研究員

宮崎 昌

### パネルディスカッション

## 6次産業振興 求められる ユーザーによりそうIT力

### コーディネータ

株式会社Smappo 代表取締役

杉山 幹夫

### パネリスト

株式会社ドリームゲート 代表取締役

澤田 竜一

株式会社イーラボ・エクスペリエンス 取締役

島村 博

宮城県 農林水産部 農林水産政策室  
技術副参事(農林水産政策担当)

伊藤 紳

東北大学 副理事 総長特別補佐 大学院経済学研究科教授  
地域イノベーション研究センター長

藤本 雅彦

サイバーコム株式会社 常務取締役

佐藤 文昭

11月9日(金) (一社)組込みシステム技術協会による基調講演

会場 6階セミナールーム(2)

AM10:00▶AM11:00

## 東北における農業への IT融合の試み

～東北スマートアグリカルチャー  
研究会のご紹介～

東北大学 大学院工学研究科  
情報知能システム  
研究センター 特任教授

菊池 務



AM11:30▶PM0:30

## M2Mから創造される 新しいICT社会

新世代M2M  
コンソーシアム 理事

鉄川 貴志



## 同時開催

### e-アライアンスフォーラム in 東北2012

## 環境ビジネスアライアンス マッチングセミナー in 仙台

環境ビジネスも「分業による協業」の時代に!

地域の枠を超えた企業間連携により新たなパッケージ型環境ビジネスが誕生しています。

東北・関東・近畿・中国(広島)・九州・沖縄から地域のパートナーを求めて18社が参加してプレゼンテーションを行いました。

主催 一般社団法人  
環境経営支援機構  
(emo)

11月8日(木)・9日(金) AM10:00 会場 6階  
PM 4:30 セミナールーム(1)

### プレゼンテーション

## ビジネスマッチング ライトニングトーク大会

複数の企業によるプレゼンテーション大会を開催しました。

### 参加企業

- 株式会社ビッツ
- グレイシティ株式会社
- 株式会社シー・エス・イー
- 株式会社エイチ・オー・エス
- スキルインフォメーションズ株式会社
- 株式会社プロアシスト
- サイバー・ソリューション株式会社
- 株式会社エフ・ビー・エス

11月9日(金)PM1:00▶PM4:00 会場 5階多目的ホール 企業展示会場内

## 新入会員紹介 (平成24年11月1日以降の入会)

正会員-入会 賛助会員-入会

会員数 (正会員・・・146社 賛助会員・・・30社)

入会日	会員名 (代表者名)	住 所 TEL・FAX
12月1日	(株)アジェンダST (代表取締役 太田 好則)	〒980-0021 仙台市青葉区本町2-10-33 第二日本オフィスビル2F TEL 022-224-8530 FAX 022-342-1044
3月15日	アルプスシステムインテグレーション(株) (仙台営業所長 佐々木 勇市)	〒980-6951 仙台市青葉区二日町3-10 グランシャリオビル5F TEL 022-713-6951 FAX 022-713-6952
1月25日	(株)ユニバーサルコンピュータシステム (代表取締役社長 荒川 義夫)	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡5-8-11 ナガイビル5-B TEL 022-292-2733 FAX 022-299-1401

(敬称略)

### 『仙台フィル演奏会チケットの斡旋について』

福利厚生委員会では、仙台フィルハーモニー管弦楽団の定期演奏会廉価チケットの斡旋をしております。

MISAホームページにチケットの申込書および利用方法をアップしていますので、この機会に生のオーケストラを堪能してみたいかがでしょうか。

URL:[http://www.misa.or.jp/?page\\_id=1261](http://www.misa.or.jp/?page_id=1261)

	(通常)		(MISA会員)
S席:	4,200円	→	3,780円
A席:	3,700円	→	3,330円



編  
集  
後  
記

地元宮城県には数多くのプロ集団があり、県民の元気の源になっています。東北楽天ゴールデンイーグルス、ベガルタ仙台、仙台89ERSがあり、プロスポーツ以外では仙台フィルハーモニー管弦楽団が活躍しています。

仙台フィルにとって今年は特別な年になりそうです。3月末に行われたロシア公演と、5月から6月にかけて3年振りに開催される、ホストオーケストラとして迎える仙台国際音楽コンクールです。

ロシア公演は国際交流基金の主催で実施されたもので、大震災以降に世界各地から日本に寄せられたご支援に対する謝意を、被災地を代表して表し、音楽の力によって復興に向かう姿を海外に伝えるという重要な役割を担って演奏しました。

2年前の大震災により数か月にわたり演奏活動のほとんどが中止になる中、発災から2週間後の3月26日には最初の復興コンサートを開始し、その後も多くの演奏家と協力し、避難所、学校、病院などを直接訪ねるなど、被災地において280回以上の演奏会を実施し、音楽を被災者のもとに届けながら絆を紡ぐ活動を行ってきたことが評価されました。

我が町にこんなに素晴らしいオーケストラがあることを誇りに思います。

厳し過ぎた冬が終わり、待ち遠しかった春が訪れました。時には演奏会に足を運び、しばし管弦楽の響きに包まれる時間を持つてはいかがでしょうか

(鈴木)